

日本の雇用・進学 「在学中準備を」

外国ルーツ4割 飯野高で講座



高校時代の経験を語る林マツミさん(中央)＝県立飯野高校で

全校生徒455人の4割が外国にルーツを持つ県立飯野高校(鈴鹿市三日市町)で4日、

英語コミュニケーション科の1年生の69人に向けて、日本の社会保険や雇用制度、進学手続きのしくみを学ぶ「キャリアセミナー」があった。卒業生4人が、在学中にできることをアドバイスした。

同校によると、外国にルーツを持つ生徒や家族は、進学や就職を決める際、日本の制度や費用面などが分からず戸惑うことが多い。

四日市市社会福祉協議会で働く林マツミさん(24)は、在学中にアルバイトで接客を経験し


名前のある家づくり
なかむら建設(株)
 伊勢市中須町609番地
 TEL0596-25-6363

ながら、英検や日本語能力検定に挑戦した。「就職に役立つのでTOEICにも挑戦して」と呼び掛けた。大進学時、入学金が必要だと知らずに困った経験があるという「お金をためることも大切。困ったら先生に相談してほしい」と話した。

市内で整備士として

働くコスタ・チャリーさん(20)は「夢を持ってほしい。複数の言葉を話せるのは強み」とエールを送った。内村マリアさん(16)は「初めて知ることが多く、先輩の話を聞いて良かった。キャビンアテンダントの専門学校

に行きたい。入学金は自分でためたい」と話していた。
セミナーは県教育委員会が外国人を支援するNPO法人「愛伝舎」(鈴鹿市)に委託して開いた。日本の学校制度や働き方に理解を深め、選択肢の幅を広げてもらおうと、5年前から実施している。

【下村恵美】